

## 第6回 呉西圏域ビジョン懇談会 会議録

日時：令和2年2月26日(水)17時00分～18時30分

場所：高岡市役所 8階 802会議室

### ○「中間評価」に係る質疑

(座長)

- ・(「中間評価の総括」に記載のある) 呉西圏域の「強み」とは、どういうことであると総括しているのか。

(事務局)

- ・「ア 圏域全体の経済成長のけん引」の分野に対しては、十分な効果を得られたのではないかと考えており、「本圏域の連携施策は圏域全体の経済成長のけん引に着実に貢献している」と評価している。本圏域の「強み」として前面に打ち出していくべきと捉えている。

(座長)

- ・広域で取り組んでこそ意味のある事業というの、徐々に見えてきつつある。広域だからこそ、首都圏や他地域に対してプロモーションを掛けることができた例や、共通化することによって様々な形での効率化を図ることができた例があったと思う。上手くいっているところも含めて、しっかり総括してもらいたい。

### ○「中間評価」及び「第2期呉西圏域都市圏ビジョン骨子(案)」に係る意見交換

(座長)

- ・御一方ずつご意見をいただきたい。

(委員)

- ・説明を聞いて大綱は分かった。重要業績評価指標(KPI)の状況は「A:達成」が57.1%、事業の進捗は「A:概ね順調」が54.8%、事業の見直し・整理は「A:事業継続」が59.5%というように、それなりに一生懸命取り組んでこられた成果が出ていると思う。現行の計画期間終了後、どうされるのか疑問に思ったが、第2期の都市圏ビジョン策定が決まり、その骨子案もできている。精一杯協力させていただくので、よろしくお願ひしたい。

(座長)

- ・成果が出しやすい取組もある一方で、これから一層努力が必要な取組もあると見ている。そこをしっかりと検証して、次の5年につなげてもらいたい。

(委員)

- ・中間評価では、「強み」をまた伸ばしていくということだった。第2期都市圏ビジョン骨子案の圏域づくりの基本方針には、「圏域経済の成長基盤となる人材の

育成」とある。最近特に思うのが、働き手不足である。大学進学もいいが、高卒採用を優遇し、地元に残って仕事をしてもらうことも大事であると思う。地域の商業科など専門的な科の高校と何か連携をして、地元に残って職についてもらう。そういったことを進めていかないと、進学等でどんどん県外へ出て、地元へ帰ってこない傾向が強いので、高校生の時から地域に根差すような気持ちになってもらうことができないかと感じた。

(座長)

- ・今ほどの高校生レベルでの取組は、単独市というより、広域的な連携で取り組まれると効果が上がると思う。第2期ビジョンで組み込める部分があるのか、各高校とも連携しながら、進めてもらえればと思う。

(委員)

- ・第2期都市圏ビジョン骨子案を見て特に感じたのが人口問題であるが、2045年（令和27年）は6市合計で322,959人という推計が出ている。これは、6市の各総合計画等で追っている数字との整合性はどうか。また、人口増が一つの課題ではあるが、関係人口をどう増やすかについて力を入れていくのも手であるという感想を持った。

(座長)

- ・やはり人口問題というのが、共通の問題意識として大きくあると思う。人口ビジョンや総合戦略で目標人口を設定されていると思うが、今回お示された数字は、国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）による推計を単純に6市分合算した形である。当然、各市において人口ビジョン等を持って計画を進められていると思う。広域的な取組の中で理解したのが、自然増についていかに計っているのかという点。もちろん社会増減もあるが、圏域内の他市からの転入転出もあると思う。まずは自然増で広域的に取り組めるものを考えていくことが大切。いずれにしても、人口問題は避けて通れず、これなくして今後の持続可能性はあり得ない。

(委員)

- ・呉西圏域には中山間地が多い。現状、耕作放棄地が増えており、今後、これをどう活用し、どう運用していくのか定住を含めて考えていく必要がある。併せて、鳥獣被害など諸問題を抱えている中、知恵を絞り連携をしながら進めていく可能性もあると思う。また、新聞紙上で話題になっている城端・氷見線の一本化には非常に興味がある。早く実現していただき、呉西圏域が、観光も含めて一層元気になるようなものを、一体感を持って迅速に進めていくことについて、各市長も考えておられると思う。皆が元気になるようなビジョンを早く示していただき、「夢」を持った呉西圏域というものを目指してもらいたい。

(座長)

- ・農業や中山間地域については、非常に大きな問題である。加えて、農業自体に ICT・IoT、5Gなどの導入が進む時代において、どのように変革していくのか。これも広域的に取り組める余地はかなり大きいと思う。情報化は、基本的に広域で高密度のデータがあればあるほど進むということもある。今すぐ具体的に何をやるというのは少し辛いかもしれないが、広域でその役割をしていただくということは大事かと思う。また、城端・氷見線の LRT 化は、沿線に居住されている方にとっても大きな関心事だと思う。恐らくはこれから検討されるだろうと思うが、こうした部分を含めて、地域の公共交通の在り方についても、第1期から引き続き組みいただき、委員がおっしゃった「夢」のある、というところは大切にしたいと思う。ぜひご検討をお願いします。

(委員)

- ・中間評価を聞いて感じたのだが、業界も含めて非常に厳しい状況にある中で、評価が少々肯定的すぎると思う。もっと厳しく評価し、これからつなげてもらえればと思う。基本方針については、人づくりも含めて、いかに地域の人口減少を抑え、活気のあるものにするかが一番大事な要件だと思う。富山県で言えば、呉東と呉西を比べると、どうしても呉東の活気が目に付く感じがする。やはり呉西として、若い人をどう呼び込むかという点に注力してもらえれば良いのではと思う。

(座長)

- ・人口減少の問題を踏まえると、人材の育成あるいは人材の定着が大きな鍵になるとのご意見だった。これは複数の委員から出ている。ここは第2期都市圏ビジョンの大きな柱として取り上げていただければと思う。移住・定住や、県内の若者の呉西圏域での就職もあるだろうし、小・中学校段階から、地元へ愛着を持つということもあるだろうし、様々な切り口や戦略があると思う。それぞれの市で取り組まれていることに加え、呉西圏域として何ができるのかという部分は、これから深く考えることが大切ではないかと思う。

(委員)

- ・(第2期都市圏ビジョン骨子案の) 圏域が直面する課題として、「若い世代の都市部への流出」との記述がある。長い歴史を見ても、首都圏の大学へ進学すると、そこで就職してほとんどの人が帰ってこない。それをいかに地元へ帰ってもらえるようにするか。北陸新幹線の開業で、東京への移動時間が短くなった。東京で就職された人も、「2時間少々なら富山から東京へ通おう。」となるかもしれない。東京で共働きだとしても、富山へ帰れば、祖父母と一緒に生活でき、安心して子どもを育てられる。では、富山から東京へ通おうと思った時に、仮に1カ月の定期代が10万円としたら、その半分は県や市などで負担してもらえれば、富山から東京の職場に通いたいとなる。東京には、もう一人子どもを生みたい、家

族と一緒に生活したいという人は大勢いる。どうすれば富山に永住してもらえるかについて考えていく時代に来ている。また、「農林水産業、製造業を中心とする地域産業の衰退の恐れ」との記述もある。漁業の現場は、これまではお年寄りが多く携わっていたが、今はほとんど若者である。もっともっと若い人に頑張ってもらえれば、農業だろうが漁業だろうが、活気が出て働きやすくなる。昨年、国が70年ぶりに漁業団体に対して数千億円を予算付けした。造船に国が半分補助する内容で、長い間仕事がなかった造船所はほとんど倒産していたため、日本中が一気に注文したら2、3年待ちの状態になったほどである。今年は、造船の補助以外にも様々な予算を付けてもらった。これまで漁業では100%自分でお金を出していたことが多かったが、このような素晴らしい制度ができたこともあり、もっと若者に頑張ってもらい、安定した生活ができれば、本当に楽しみがある商売だと思っている。機会があれば、ぜひPRしていただきたい。

(座長)

- ・前段では、人口減少に対して、富山県に定住することの大切さをご説明いただいた。富山は住環境や子育て環境に恵まれているということは、都市圏の人たちにもかなり浸透しつつあると思うが、もう一つ高い暮らしの質をどうやったら達成していくかという時に、それぞれの地域で暮らす方々の暮らしを実際に知っていただくことが大切である。また、1市単独ではなく、広域として見た場合、街もあり海もあり、郊外には山・海といった多彩な自然もある。もちろん住環境もあるということも、圏域全体としてPRしていく。これは第1期でも取り組んでいたと思うが、そこが一層大切になってくると思う。その中で、漁業や農業に興味を持つ人たちも徐々にではあるが増えてきている気もするので、これについてもしっかりPRしていくことが大事である。

(委員)

- ・富山県アルミ産業協会は、県と一緒に「とやまアルミコンソーシアム」を進めている。もちろん、とやま呉西圏域に足を置いている企業もあれば、そうでない企業もある。アルミ産業協会は、呉西圏域だけを考えているわけではない。やはり、技術的にナンバーワンにならないといけない。そして世界に勝っていかなければならないと考えている。ただ、ひいては、県西部に拠点を持つ企業が活性化されれば、呉西圏域も活性化するのではないかと。逆に、活性化しなければ、大変厳しいことになるかもしれないという責任も感じており、一生懸命やっていかなければならないとつくづく感じている。我々も、地元の皆様の協力も仰ぎながら、事業の活性化を一生懸命進めていきたい。

(座長)

- ・企業活動というのは、グローバルに考えているし、経済合理性に従って意思決定していかなければならない。その結果として、呉西圏域が選ばれ、企業が立地す

ることにつながる。そういったものもしっかり作っていかねばならないという点で、産業関連の施策にも既に何点か取り組んでいるが、それを一層進めてもらいたい。ある程度の集積がないと産業は育たない。密度の高い集積についても、呉西圏域全体で取り組んでいくことが重要で、結局ビジネスに勝つ企業が、立地をする。これは、経済界との相互の議論も大切であり、意見交換も大切。呉西圏域としての取組をぜひお願いしたい。

(委員)

- ・改めて呉西6市を見ると、割とコンパクトにまとまっており、様々な産業が集積されているところだと感じた。驚いたのは、将来推計人口の減り方があまりにも強烈で、ショックを受けるぐらいの数字だった。これを何とかしないとイケないという思いでいる。6市で広域的に様々な事業をされており、もっと強化していけば、各自治体の負担も少しずつ軽減されていくのではないかと思う。また、漁業、農業、製造業も、今の若者は物事の考え方に多様性があり、結構様々な角度から自分の将来の仕事を考えている人も多い。自社も、県内だけで必要な新卒の社員を採用しようとしても無理である。どうしても県外まで手を伸ばし、必要な人員を確保してきている。さらに、どうしても必要な部門には、海外からも人材を確保している。首都圏や大都市からのU I Jターンが結構あるが、そのきっかけをつくるという意味でも、各市、協会等の団体、あるいは企業で地域の魅力について考えていかねばならないと思っている。

(座長)

- ・人口減少問題については、国全体でも減少する中、増加することは難しいかもしれないが、減少が進む中でも、どのような形で住みやすさ、暮らしやすさを提供していくかという意味で、行政サービスの広域化も現実的な課題として出てくると思う。また、人材確保については、県内で育った子どもたちの県内定着と併せて、外国人材も含めて富山で働いてくれる人を増やしていくことも大切にしていかなければならない。富山大学にも県外出身者が大勢いるが、県外から来た学生の県内定着にも頑張っていけないといけない。繰り返し指摘されているところではあるが、これに対してきっちり取り組んでいかないと、これからの経済成長がおぼつかないのは確かだと思うし、やはり、起業・創業で、そのような志を持った方をどう育てていくかについては、商工会議所にもご尽力いただかないといけないところかと思う。ぜひよろしくをお願いしたい。

(委員)

- ・とやま呉西圏域都市圏ビジョンについては、大前提として、広域で取り組むことによってスケールメリットが出る部分や、シナジー効果がある部分に絞り込みをされていくと理解している。(第2期都市圏ビジョン骨子案の)「5 重点プロジェクト」として、新・5星プロジェクトとあるが、どの辺が新しいチャレンジな

のか分かり易く発信してもらえるとありがたい。また、「新たな潮流への対応」に SDGs という言葉がある。これは非常に重要なキーワードと思うが、これは 2030 年のゴールをあるべき姿として示し、それをバックキャストで今から取り組むことを考えていくというアプローチである。その意味では、長期を見据えたビジョン作りが良い。SDGs は何か規範的なものではなく、ゴールに向けた取組の中で新たな市場が生まれ、その新市場に対して仕掛けていくという攻めの姿勢がポイントになってくると思う。また、昨年の台風 19 号に端を発した気候変動という話が徐々に脅威として感じられてきていると思うが、それらに対するレジリエンスの強化も、より検討を深めていただけると良いと思う。また、各自治体だけではできない官民連携として、PPP、PFI 等については、新たな潮流として、より一層広がり、深まり、具体的な実績が増えてくるころだと思うので、ぜひ、そちらにも取り組んでいただければ良い。

(座長)

- ・広域化によるシナジー効果があれば、その効果を全部出していくのが広域連携の本質的なところだと思うので、このあたりを貪欲に追及してもらいたい。呉西圏域の第 1 期都市圏ビジョンを策定する当初は、公共施設を共有化・広域化すれば上手くいけると漠然と考えていたが、実際に立ち上がって実績を積み上げていくと、ソフト事業での広域化・共有化を進めていけば、それが住民の利便性向上や、コスト削減などの面があるのだと感じた。そして、ソフト事業の広域化により、圏域の一体感が醸成され、次のステップにつながることも感じた。このように、しっかりと効果を出せることは継続の源泉だということはぜひお考えいただきたい。また、SDGs については非常に大事で、企業の意識もかなり変わってきている。例えば、東京五輪の調達については、環境の問題は非常に強く意識されている。あるいは、ダイベストメントという潮流もある。このことから、SDGs に地方都市が取り組んで成果を上げることは、潜在的なチャンスとしてかなり大きいと思うので、単なる流行ではなく地に足が付いたものとして取り組んでもらいたい。

(委員)

- ・日頃、市長方には（大学で）授業していただき感謝申し上げます。その授業で最初に出てくるのが人口減少問題だが、今回の資料にある将来推計人口よりも、市長から説明いただく数字はそこまで大きく下がっていないという話をいつもされている。先程、評価は少々甘いのではないかという意見もあったかと思うが、これまでは、まとまることによって無駄をなくすという観点から様々なことを進められてたであろう呉西圏域都市圏ビジョンを、ぜひ、第 2 期では攻めに転じるような計画にしてもらえるとありがたい。その時に大学ができることはお手伝いさせていただくので、ぜひ活用をお願いしたい。それで、1 点お願いだが、第 2 期

都市圏ビジョン骨子案の「3 圏域が目指す将来像」の本文最後に、「30万人の人口規模を維持する圏域」とあるが、もしこれが2045年を見据えての計画なら、30万人の人口規模を維持するというのもよいが、5年後、10年後ということなら、まだ40万人の人口は維持しているわけだから、ここはもっと攻めの姿勢でもよいのではないか。目標が30万人だと何十年後の数字であるので、考えてもらいたい。もう1点、大学の立場で言うと、Society5.0の実現に向けて5Gを一挙にやろうと思っても、現在のところコンテンツがないと言われている。例えば、となみ衛星通信テレビ株式会社はローカル5Gを申請されている。あれは500メートルしか届かないとのことだが、これを使ってどんなことができるかを実証的に実施いただき、それをもっと広めていくような動きがあっても良いと思った。最後に、大学側も助力し、高校生に対して県内で定着しながら盛り上げていくような施策をできないかと考えており、ぜひ大学の活用をお願いしたい。

(座長)

- ・大学の活用をよろしく願います。人口の問題で、何年後にこの人口規模(30万人)にしていこうとしているのか。それから直近の5年間ではどう考えればいいのか。また10年先はどう考えればいいのか。先程、バックキャストという話もあったが、先を見据え、何年後に何をすればいいのかということを考えていくことは大事だと思うので、第2期のビジョンの策定に当たっては注意してほしい。

(委員)

- ・まず、これまでの実績としては、概ね成果が出ている。KPIも6割程度は達成しており、同じ行政の立場としてご努力頂いていると思う。これを踏まえて取り組んでもらえればありがたい。今ほどは、特に人口の話が出た。社会動態でマイナスになっているとのことだが、県全体でも去年は約800人の社会減。これは、大変なことが起きているという認識は持ちつつも、日本全体の中で見れば、そう悪いわけでもない。社会動態がプラスなのは、首都圏1都3県と、愛知県、京都府、大阪府、福岡県くらい。他に、時々プラスになる県はある。大きく言って10県程度はプラスで、37県は社会動態がマイナスである。東北や、九州、中国・四国地方では、1年間で5,000人程度、社会動態のマイナスになっている県はたくさんある。2年間で1万人ずつ減っている上に自然減が来るため、人口がどんどん目に見えて減っていく県はたくさんある。北陸3県は非常に頑張っている。その理由の一つは産業が非常に強い。産業が強いということは、雇用され、その賃金も高いので、生活が安定するということ。それから、子育て環境が良いというのは、首都圏から移住した人が実際におっしゃっている。加えて、教育環境も良い。教育は、東京や大阪では私学では良い教育を受けられるが、公立学校ではなかなか難しい。富山県の場合は、公立学校で非常に素晴らしい教育を受けられる

のでありがたいといったことも大きい。こうした点を踏まえ、しっかり取り組まなければいけないと思っている。県としても、産業振興では先程とやまアルミコンソーシアムの話もあったが、薬でもヘルスケアでもコンソーシアムを作って、しっかり取り組んでいきたいと思っている。富山には暮らしよきはあっても、移住を呼び込むためにはしっかりアピールしなければいけないという話があったが、誠にそのとおり。県としても子育て環境や教育環境の良さを訴えていきたい。結局のところ、呉西圏域で皆さんおっしゃっていることと県がやろうとしていることは、ほぼ同じ目標に向かって同じことをやろうとしているということかと思う。県も頑張りたいと思っており、呉西圏域の皆様とも連携をしながら、これからしっかり取組をしていきたいと思っているので、よろしくお願いしたい。

(座長)

- ・人口減少問題の捉え方は、おっしゃる通りだと思うし、県全体の取組との関連性がある。また、大きな方向性としては、個々の全国の地方圏でも共通していると思うが、そうした方向性の中で、単独の市というよりも、呉西圏域として見た場合、何が強みなのかを見出して、しっかり打ち出していくことが、多くの委員からいただいた意見かと思う。事務局から何かあるか。

(事務局)

- ・第2期都市圏ビジョン骨子案の「3 圏域が目指す将来像」に、「30 万人の人口規模を維持する」という記述があったと思うが、これは「2060 年」をイメージしている。その文言が抜けてしまった。(⇒後日追記対応)

(座長)

- ・今年が国勢調査の年で、いずれ人口動態が詳しく出てくると思う。人口問題は関心が高いため、しっかり調査いただき、対応していくことが大事である。

## ○閉会にあたり一言

(座長)

- ・たくさんのご意見を頂いた。第2期都市圏ビジョンについて、骨子を肉付けしていく際には、参考にさせていただきたい。

(とやま呉西圏域連携推進協議会会長)

- ・本日は様々な意見をいただき御礼申し上げます。賜ったご意見を参考に、令和2年度は第2期のビジョンの策定作業を進めていく。委員の皆様には、色々ご相談に伺うこともあろうかと思う。よろしくお願いしたい。第1期の5年間の中で、社人研の将来推計人口に見直しがあった。各市で異なるが、若干上振れしているところもあり、それなりの成果も出ているのではないかと推測しているが、いずれにしても、増減を繰り返しており、非常に厳しい環境にある。そういう意味で、頑張りどころでもあろうかと思う。しっかりと組立をして、また進めていきたい。

先程、2060年に30万人規模を維持とあったが、かなり先の話ではある。ただ、30万人というのは、一つの生活圏として成り立っていく規模ということで、皆で30万人を目指していこうと標榜しており、それから各市も様々な政策努力で、社人研推計から少しでも上振れするよう努力をしている。そこまでには、まだかなり時間があるからもっと頑張れ、との意見もあったので、そこはこれからのビジョン策定の中で、「夢」や、若者たちがこの地域に住んでいこうという気持ちを持っていただけるよう努力したい。呉西圏域は、山から海まで様々な魅力を抱えた地域でもあり、全国的に見れば、濃密な産業集積がある場所と自負している。また、様々な産業や商工業、農林水産業など、色々ある。そういった圏域の持つ強みを伸ばし、また、新たに創っていくことで、これからの圏域づくりを進めていきたい。今後ともよろしくご指導をお願い申し上げます。